

i.school 設立記念「人間中心イノベーション・シンポジウム／ワークショップ」 実施概要 (ver. 1)

1. シンポジウム

日時：2009 年 9 月 11 日（金） 午後 12 時半開場・1 時開始／午後 5 時半終了

場所：東京大学大学院情報学環 福武ラーニングシアター

講演者：

- Tom Kelley 「発想する会社！」「イノベーションの達人！」の著者として日本でも広く知られる米・IDEO 社(本社・カリフォルニア州パロ・アルト)の副社長(General Manager)。2007 年より、UC Berkeley Haas School of Business のエグゼクティブ・フェロー(Executive Fellow)
- Barry Katz Stanford Institute of Design (d.school)教授。IDEO 社のフェローも務める。イノベーションやデザインを歴史的な視点から捉える独自のアプローチは、産学双方から高い評価を得ている。著書に“Technology and Culture: A Historical Romance”(Stanford University Press) 等。
- Heather Fraser Rotman School of Management, Univ. of Toronto 教授。ビジネススクールに「デザイン思考」の新風を吹き込む、新たなイノベーション教育プログラム“DesignWorks”を 2005 年に立ち上げ、以降、同プログラムの責任者(Director)。同校就任前は P&G 社等で活躍し、産業界と強力なつながりを持つ。
- 紺野 登 多摩大学大学院教授。KIRO 代表。「知識デザイン企業」(日本経済新聞)など、知識経営に関する多くの書籍を上梓。自らもデザイン思考に基づく新たな知識経営を指南するコンサルタントとして活躍。
- 堀井 秀之(オーガナイザー) 東京大学 i.school エグゼクティブ・ディレクター

アジェンダ：

- 基調講演(13:00～14:00) Tom Kelley “タイトル未定(イノベーションのパラダイムシフトとその実現プロセスについて)”
- 招待講演(14:00～15:00) Heather Fraser “タイトル未定(創造性を育む新たなビジネススクール教育について)”
- パネルディスカッション #1(15:30～16:30) Barry Katz, 紺野 登, 堀井 秀之(オーガナイザー) “タイトル未定(人間中心イノベーションを巡る、産業・環境・教育の日米比較)”
- パネルディスカッション #2(16:30～17:30) Tom Kelley, Barry Katz, Heather Fraser, 紺野 登, 堀井 秀之(オーガナイザー) + i.school イノベーション探検隊(学生

による有志組織) “タイトル未定 (人間中心イノベーションに関する事前リサーチをもとに、学生ならではの視点で Q&A セッションを構成)”

2. ワークショップ

日時：2009 年 9 月 14 日 (月) ~18 日 (金) 午前 10 時~午後 6 時 (全日)

場所：東京大学工学部 1 号館 (予定)

WS テーマ：Toward better communication between working mothers and their children at home (家庭におけるワーキング・マザーと子どものコミュニケーション円滑化に向けて)

オーガナイザー：

- IDEO 多くの一流企業・パブリックセクターをクライアントに持ち、子供用歯ブラシから航空機、診療プロセスから金融商品にいたるまで、革新的なアイデアをかたちにしつづけ、「イノベーションの達人」と称されるデザイン・ファーム。同社から、経験豊かなメンバーが来日し、ワークショップの進行役を務めます。
- 博報堂 イノベーション・ラボ 生活者中心のイノベーションを独自のアプローチで追求する、半研究所/半コンサルティング・ファームの形態を持つチーム。生活者研究を起点とする創造のノウハウを、ワークショップを通じて提供します。
- 大阪ガス 生活者観察を通じた新たな価値発見を研究開発の礎とする、日本における「人間中心イノベーション」のバイオニア的存在。ワークショップテーマに関連する従前の知見の提供と、同社社員のワークショップ全工程への参加を通じ、リアリティ溢れるプロセスとアウトプットの実現に貢献します。

アドバイザー

- Barry Katz ※「シンポジウム」の項をご参照ください。

アジェンダ (予定)：

- 9 月 14 日 (月) 導入/フィールドワーク準備 ワークショップのゴールイメージとプロセスを共有。生活者洞察の基礎となる、フィールドワークの準備を行う。
- 15 日 (火) フィールドワーク 日常生活シーンにおける (例外的な) 生活者の参与観察を実施し、生活者の行動、発話を文章、写真、ダイアグラム等を用いて描き出す。
- 16 日 (水) 経験共有/シンセシス (i) フィールドワークを通じて収集した質的データを、ストーリー・テリングを通じて (チーム内で) 共有・解釈する。また、データをその背後にある社会・文化的コンテクストを考慮の上、帰納的に構造化し、イノベーションの機会発見につなげる。
- 17 日 (木) シンセシス (ii) /アイデア創出 イノベーション機会の探索を継続。続いて発見した機会に基づくアイデアの創出とブラッシュアップを行う。

- 18 日（金） プロトタイピング／プレゼンテーション 物理的な材料やソフトウェアを使用し、アイデアの具現化を行う。形になったアイデアをもとにプレゼンテーションを実施し、アドバイザー／オーガナイザーのフィードバックを通じてワークショップ・プロセスの振り返りを行う。

以上